

「Chosun Online の記事は1週間で見れなくなりますので、以下のように引用させていただきます、ご紹介します」

朝鮮日報／朝鮮日報日本語版

<http://www.chosunonline.com/news/20091229000036>

●原発輸出：逆転に次ぐ逆転、交渉の舞台裏(下)

■3回目の電話(11月下旬)

李大統領は50年のスパンから見た両国関係について何度も強調し、ムハマド王子も原発をきっかけとした長期の協力関係が必要という点に共感を示した。

■4回目の電話(12月10日)

ムハマド王子は「大人数の代表団を派遣し、今後の協力関係について説明してくれたことに感謝する。来週ごろには何らかの具体的な話ができそうだ」と述べた。

■5回目の電話(12月15日)

ムハマド王子が秘密の厳守を求めた上で「韓国と契約を結ぶことが暫定的に決まった。27日か28日ごろにUAEを訪問してほしい」と連絡してきた。

■6回目の電話(12月18日)

李大統領がデンマークのコペンハーゲンで気候変動会議に出席していたところ、ムハマド王子から電話がかかってきた。李広報主席は「契約書に署名する日時が決まったのがこの日だった」と明らかにした。

李大統領は28日に帰国し、大統領府に戻ると主席秘書官らと茶を飲みながら「ムハマド王子は契約書に署名を終えた直後、“韓国と契約を結ぶに至ったのは神のご意志のようだ”という意味の発言をした」と語った。その席で李大統領は「労働法改正の問題は今どのようになっているか」と国内問題について最初に質問したという。李大統領は「法案が通過しない場合に備え、混乱が起こらないよう徹底して準備せよ」と指示した。

夕方に李大統領はソウル永登浦にある飲食店で開催された「中小企業・愛のボランティア団」の忘年会場を突然訪問した。その席で李大統領は「大企業の関係者と約束していれば、来られなかったかもしれない。今日は疲れて唇もカサカサになったがこの場に来ることができた。今年は歴史に残るような困難なこともあったが、何とか持ちこたえることができた」などと述べながら、出席者を激励した。

黄大振(ファン・デジン)記者

朝鮮日報／朝鮮日報日本語版